

【提出様式】 令和7年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立

長崎小

学校

評価対象者数 (人)			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
291	195	21	9

領域	豊島区教育ビジョン 2025 基本方針等	評価番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に向けた改善策					
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価概要	学校関係者評価の意見		標語				
				4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1								
II	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	II-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					25.1%	49.2%	2.6%	0.0%	23.1%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	81.0%	9.5%	0.0%	・小中連携や保幼小連携を行い、児童や、園児がスムーズなスタートをされるように、引き続き円滑な接続をすすめていく。	関係諸機関等との連携ができていて、入学希望が増えていて嬉しい。	B	・小中連携は、9年間の見直しをもち、中学校との連携を図っていく。 ・保幼小連携では、多くの園児を招いたり、音楽会に招待したりすることができた。 ・園児が学校を楽しみにできる活動を継続するなど、保幼小の連携を推進していく。
I	確かな学力の育成	I-1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。	23.1%	62.0%	3.6%	0.0%	11.3%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	9.5%	90.5%	0.0%	0.0%	・タブレットによる宿題や連絡など活用方法も多様に行えるようになった。 ・電子黒板も効果的に活用している。児童自ら「やってみよう。解いてみたい。」という意欲をもたせるために、日々の授業を充実させる。	宿題や連絡は、タブレットのクラスルームを活用していることは児童から聞いている。タブレットが重いので持ち帰りを検討してほしいという意見は今年度は聞いていない。	B	・毎学期、授業改善プランの見直し、検討、実践のサイクルを重視し、児童の学力向上を目指す。 ・意思伝達力を育てる授業づくりを工夫する。 ・タブレット・電子黒板の有効活用を継続する。				
		I-2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。		28.7%	55.9%	7.2%	0.5%	7.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	90.5%	4.7%	0.0%	・周年行事を通して、児童に郷土愛を育むことができた。 ・道徳授業地区公開講座「生命の尊さ」の授業を公開した。 ・「生命」の大切さとともに他者を理解し互いを大切にする心の育成を行っていく。	140周年行事に参加することができ、長崎小学校が代々受け継いできたことを再確認できた。道徳教育の充実を図り、いろいろな気持ちや考えを大切に今後も素晴らしい心を育てる教育をしてほしい。	A	・来年度は地域運営学校となり、地域の方々との交流や活動を通し、「心の教育」を推進していく。 ・道徳科では、多面的・多角的に考える学習を通して、自己を見つめる児童の育成を行っていく。				
	豊かな心の育成	I-3	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。		31.8%	50.3%	2.0%	0.0%	15.9%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	・縄とび月間、持久走月間などを通して体力作りの実践をすすめた。 ・年間を通して歯磨き指導を行い、歯磨き教室では、学校医や歯科衛生士と連携することができた。 ・「がん教育」や薬物乱用防止教室もを行い、正しい知識の普及を推進してきた。	芝生は長崎小の自慢の一つであるが、児童数が増えていることもあり、ケガの状況を確認したい。また養生期間中、教室での遊びの工夫を検討してほしい。	B	・体力向上の月間については、今後も継続して取り組む。 ・休み時間の活動場所も、校庭・体育館・屋上を計画的に使用して体力向上を図る。 ・歯磨き教室は、学校医や歯科衛生士と連携を図り行っていく。				
		I-4	学校は、生命を大切にできる態度や思いやり、優しい心を育てている。		28.2%	53.3%	2.1%	1.0%	15.4%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	14.3%	81.0%	4.7%	0.0%	・月に1回のいじめ防止対策委員会と不登校対策委員会を実施し、全校でいじめの原因となる状態からの把握や不登校傾向の児童の把握をしてきた。 ・特別支援教育については、ひまわり教室、五組について、2年生を対象に啓発授業を行ってきた。 ・保護者に対しても特別支援教育について周知する必要がある。	運動会や学習発表会など児童が積極的に協力している姿が素晴らしい。いじめ防止に関しては、大切なことなので組織的に対応する必要がある。いじめ未然防止のため今後も情報共有に協力していきたい。	B	「ふれあいデー」には、どの教職員にも相談できる体制や児童一人一人がもつ困り事をいつでも誰にでも相談できる環境を整えた。 ・月1回の不登校対策委員会やいじめ防止委員会、アンケート・相談等で定期的に児童の様子を把握する機会を設ける。 ・早期発見、早期対応を行うために「子ども見守りシート」を保護者に配布し、保護者が気付いた子供の変化をすぐに管理職に知らせられるようにする。					
	健やかな体の育成	I-5	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。		17.4%	59.5%	10.8%	2.1%	10.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	・委員会活動やクラブ活動、異学年交流では、児童の意欲の高まりが見られ、高学年の活躍の場となった。 ・児童が活発で素直なところがよいところがあるので、主体的に考えたり行動したりする力を育成していく。	6年生がまとまっていたのは、先生方の指導の賜である。引き継ぐ5年生、下級生も楽しみである。	A	・特別活動を中心に、児童が主体的に活動できる場を計画的に設定し、児童が活躍できる場を多く設け、自己肯定感の高い児童を育てる。				
I-6		学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。	26.7%	54.9%	4.6%	0.5%	13.3%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	9.5%	71.5%	19.0%	0.0%	・ホームページの更新や公開をすることで、学校の子供の様子を伝えることができた。 ・子育てに関する迷いや悩みも多いため、民生委員・児童委員とも連携を深めていきたい。	積極的に地域や民生委員との連携を深める努力が見られる。また学校によりや学校ホームページによって、地域も児童の様子を知ることができている。	B	・来年度は、地域運営学校として、地域の方々との協働し、児童の健全育成を図る。 ・学校生活や活動の様子をホームページやお便り等で発信していく。							
III	一人一人を大切にできる教育の推進	III-1	学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で組織的に対応している。	20.0%	44.1%	5.2%	1.0%	29.7%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	28.6%	66.7%	4.7%	0.0%	・委員活動やクラブ活動、異学年交流では、児童の意欲の高まりが見られ、高学年の活躍の場となった。 ・児童が活発で素直なところがよいところがあるので、主体的に考えたり行動したりする力を育成していく。	6年生がまとまっていたのは、先生方の指導の賜である。引き継ぐ5年生、下級生も楽しみである。	A	・特別活動を中心に、児童が主体的に活動できる場を計画的に設定し、児童が活躍できる場を多く設け、自己肯定感の高い児童を育てる。						
		III-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。	19.5%	57.9%	5.7%	1.0%	15.9%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	66.7%	4.7%	0.0%	・本校の特徴である長崎獅子舞をSDGsの中核において取り組んでおり、それを継続する必要がある。	「道行き」など大きなイベントでの長崎獅子舞の披露を引き続き行っていくなど、地域行事への参加を大切にしたい。	B	・総合的な時間に長崎獅子舞を位置付け、学習を進め、長崎地域の伝統文化の担い手を育てていく。						
		III-3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	20.5%	39.5%	3.1%	1.0%	35.9%	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。					
V	教師力の向上と魅力ある学校づくり	V-1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	25.8%	62.4%	5.2%	0.5%	6.2%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	23.8%	71.4%	4.8%	0.0%	・ホームぺージの更新や公開をすることで、学校の子供の様子を伝えることができた。 ・子育てに関する迷いや悩みも多いため、民生委員・児童委員とも連携を深めていきたい。	積極的に地域や民生委員との連携を深める努力が見られる。また学校によりや学校ホームページによって、地域も児童の様子を知ることができている。	B	・来年度は、地域運営学校として、地域の方々との協働し、児童の健全育成を図る。 ・学校生活や活動の様子をホームページやお便り等で発信していく。						
		V-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	20.5%	53.3%	2.1%	0.5%	23.6%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	95.2%	0.0%	0.0%	・本校の特徴である長崎獅子舞をSDGsの中核において取り組んでおり、それを継続する必要がある。	「道行き」など大きなイベントでの長崎獅子舞の披露を引き続き行っていくなど、地域行事への参加を大切にしたい。	B	・総合的な時間に長崎獅子舞を位置付け、学習を進め、長崎地域の伝統文化の担い手を育てていく。						
	家庭・地域との連携	V-3	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。	33.3%	55.4%	5.7%	0.5%	5.1%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	76.2%	4.8%	0.0%	・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。						
V-4		学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	30.8%	57.4%	1.5%	0.0%	10.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	81.0%	0.0%	0.0%	・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。							
特色ある教育活動	V-6	学校は、長崎獅子舞への取り組みに関する教育を推進している。	34.9%	53.8%	0.0%	0.5%	10.8%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	52.3%	42.9%	4.8%	0.0%	・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。							
		学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。	9.5%	61.9%	28.6%	0.0%												・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。						
IV	働き方改革	IV-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。														9.5%	61.9%	28.6%	0.0%	・会議の精選や校務支援システムを使って会議時間は短縮を図っている。 ・スクールサポートスタッフや学級運営補助員の役割を明確にするなどさらに校務改善を図る。	教職員の教育に対する熱意を感じる。さらに校務を改善し「子供と向き合う時間」を大切にしたい。	B	・SSSや学習支援員など多くの人の配置や仕事の割り振りをして、働き方改革につなげていく。 ・教師の役割と効率化について内容を精査し、働き方改革を継続していく。			

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある